



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

2014年3月期 決算 説明資料

2014年5月30日

<目次>

- **事業概要**
- **決算概要**
- **今期業績見通し(2015年3月期)**
- **注力分野の状況**
(オーブンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

事業概要

5つの事業分野（BF）と技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス	
	リアルタイムソフトウェア	リアルタイムソリューション
モバイルネットワーク	移動体通信事業者や法人向け技術サービスの提供と技術アプリ開発	RealtimePowerシリーズ  機能安全対応 RTミドルウェア RTMSafety
ワイヤレス	スマートフォンやタブレットに搭載される組み込みソフトと技術アプリ開発	 地上デジタル放送用 組み込みソフトウェア airCube
インターネット	非接触型IC搭載の組み込みソフトや民間企業向けの技術アプリ開発	 位置情報サービス プラットフォーム airLook
社会基盤システム	防衛・放送・交通・環境エネルギー・医療などの社会公共分野の技術アプリ開発	 SVG製品ファミリー airSmartG
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器などの組み込みソフトと宇宙天文分野の技術アプリ開発 ロボットの組み込みソフトと先端分野の技術アプリ開発	 超高速 インメモリXMLデータベース Karearea

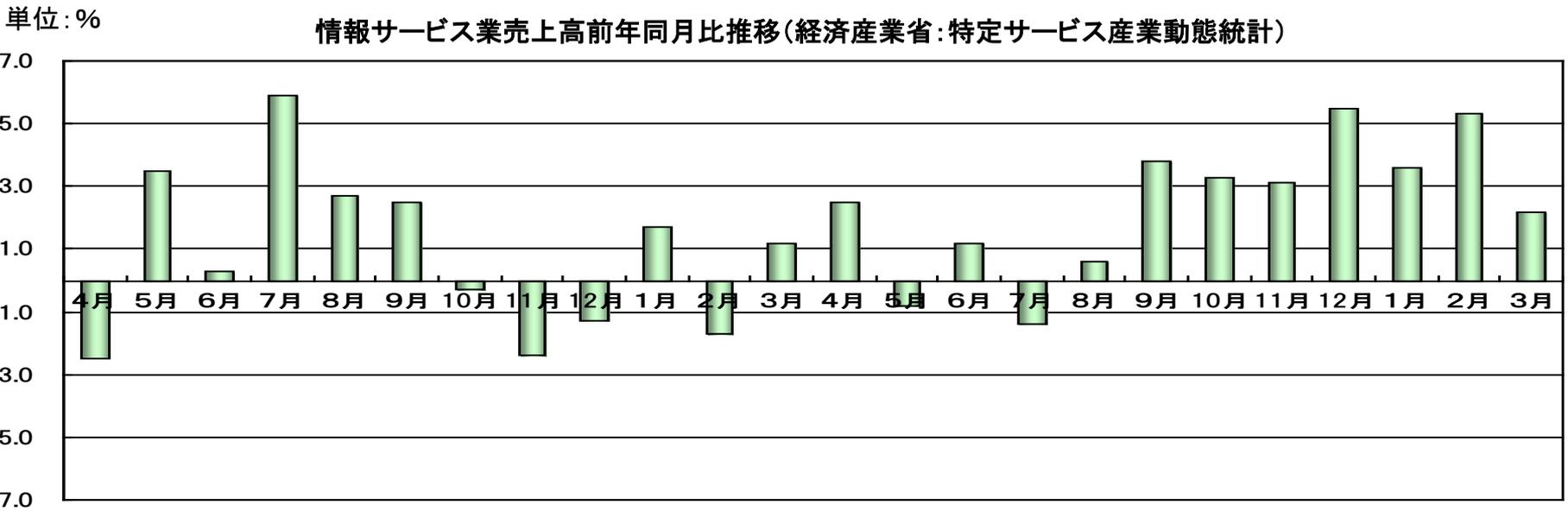
決算概要

(2014年3月期)

事業環境

◆ 2014年3月期の事業環境

- 2013年4月から2014年3月までの月別売上高は、8月より8ヶ月連続で増加しており、IT需要は回復傾向



◆ 当社事業領域

- スマートフォン端末の開発はピークが終わり、スマートフォンを使った新たなサービスの開発の需要が増加
- 今までの放送や交通に、防衛や医療などの社会公共分野の需要が増加

2014年3月期重点テーマ総括

開発体制を強化して顧客基盤のさらなる強化を図り、継続的な成長を目指す

期初方針	総括
<p>現場力で「質を下げずに量をこなす」に挑戦する: QCD & I</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 協力会社を組み入れた体制でも高い品質を維持し、「質が量を呼ぶ」ことにより受注を増やす。 ■ 基本方針である「QCD & I」でお客様満足度を高め、顧客基盤を強化してリピート商談につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高外注費率は、当社としては過去最高となり、期初予想を上回る増収を達成した。 ■ 協力会社を組み入れた体制での品質維持に組織的に取り組み、品質問題は発生しなかった。
<p>成長が期待できる市場に参入する: オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■ オープンプラットフォームは、Android関連や電子マネー(NFC含む)、MM放送に加え、Tizenなどの新しいプラットフォームの開発案件の受注を目指す。 ■ 環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、復興需要を含めた開発案件の受注を目指す。 ■ ロボットは、RTMSafetyで介護や家庭、さらにスマートハウスなどの環境エネルギー市場との連携を視野に市場を開拓する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オープンプラットフォームは、通期では好調であったが、下期はスマートフォンの開発が一巡し、期待していたTizenなどの新OSを含めた新たな技術の需要が期待を下回った。 ■ 環境エネルギー分野は、太陽光発電監視システムにビジネス領域を広げた。 ■ ロボットは、車両自動走行や巡回ロボットなどを受託した。
<p>変化先取りに注力: 研究開発と製品開発に積極投資</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 360° 全方位テレビなどビジネス化に向けて積極的に取り組む。 ■ 環境エネルギーの実証実験を継続する。 ■ ロボットに関しては、国の公募案件に参画し、モジュール化・部品化の研究を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ほぼ予定どおりの成果 ■ ロボットは、経済産業省の「ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)」に参画し、RTMSafetyとCPUをパッケージ化した共通基盤モジュールを開発した。
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 本社増床(2013年5月)、事業継続マネジメントシステム(ISO22301)の認証取得 	

売上高、受注高、受注残高ともに過去最高を更新

■売上高、経常利益、当期純利益は計画を上回り、3期連続で増収増益

- 売上高は、オープンプラットフォーム関連に、社会基盤システムの商談が好調で、過去最高
(売上高:計画達成率108%、前期比111%)
- 営業利益、経常利益ともに上場来最高、経常利益は6期連続で増益
(営業利益:計画達成率97%、前期比101%、経常利益:計画達成率103%、前期比105%)

■受注高、受注残高ともに前期比で増加

- 受注高は、社会基盤システムの商談が活発で、約43億円となり過去最高
(受注高:前期比107%)
- 受注残高は、11億を超えて過去最高
(受注残高:前期比104%)

■オープンプラットフォームの売上高が好調を維持し、社会基盤システムが増加

- 移動体通信事業者やマルチメディア放送事業者向けのオープンプラットフォームに関連するサービス系のソフトウェアが好調
- 社会基盤システムの官公庁系、放送局向けの技術アプリケーションに加え、交通や防衛の商談が大幅に増加

■一方、オープンプラットフォームの商談の勢いが低下 → 需要構造の変化

- オープンプラットフォーム(モバイルネットワークBF/ワイヤレスBF/インターネットBF)の受注高は対前期比で減少
- 需要構造の変化を感知し、社会基盤インフラ系へシフト、医療(医薬品)分野などの官公庁の受注高が大幅に増加

損益計算書

	2013年3月期 (百万円)	2014年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	3,818	4,250	111.3%	3,950	107.6%
売上原価	2,649	3,064	115.7%	2,750	111.4%
売上総利益	1,169	1,185	101.4%	1,200	98.8%
販売管理費	520	533	102.5%	530	100.7%
営業利益 (営業利益率)	648 (17.0%)	651 (15.3%)	100.5%	670 (17.0%)	97.3%
経常利益 (経常利益率)	674 (17.7%)	707 (16.7%)	104.9%	690 (17.5%)	102.6%
当期純利益	407	428	105.1%	410	104.5%

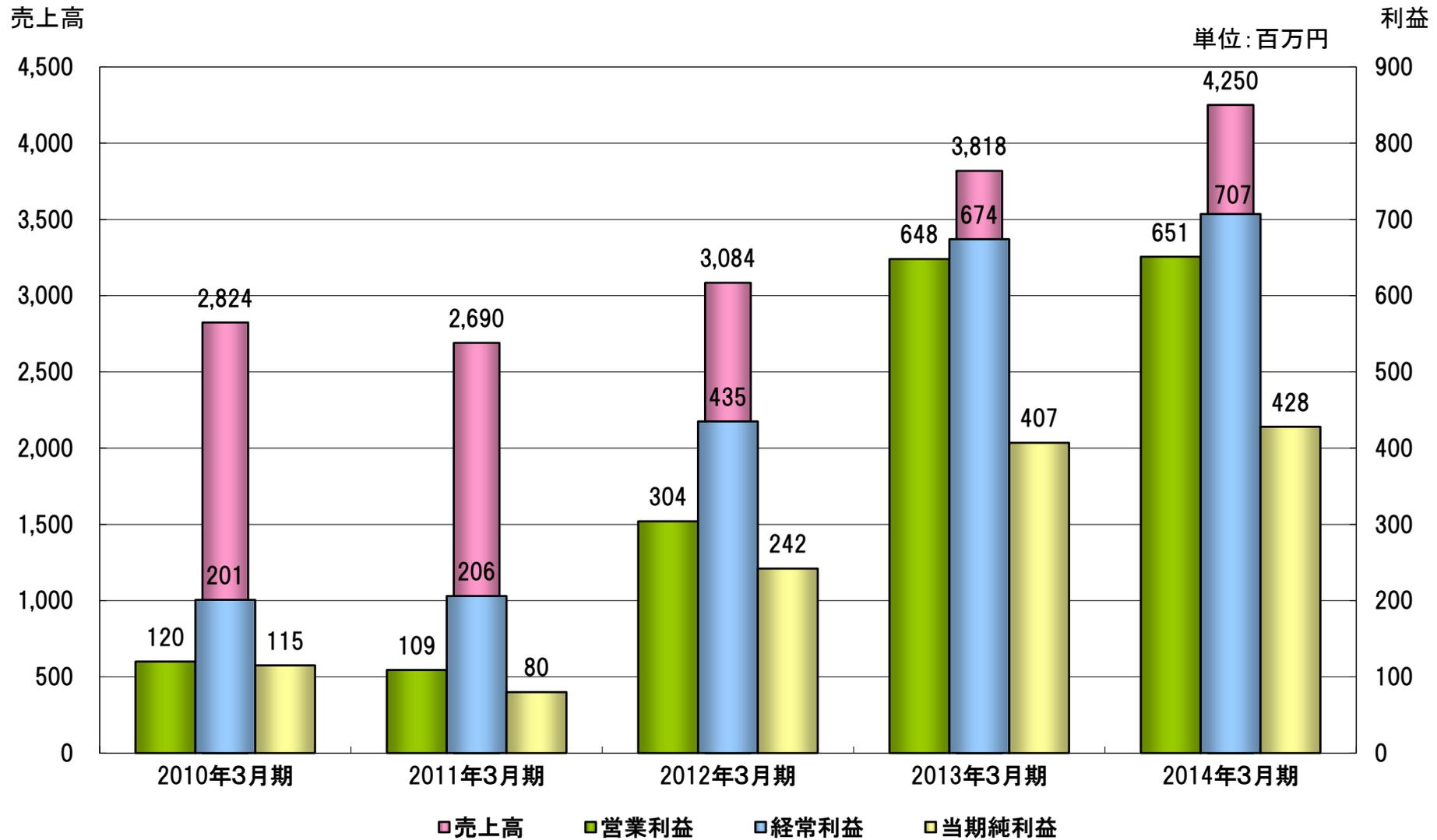
売上原価 外注費が大幅増(前期比422百万円、91%増、売上高外注比率20.9%、前期12.2%)

販売管理費 研究開発費は73百万円(前期比70%増)

営業外損益 研究開発の補助金収入は40百万円(前期比453%増)、環境エネルギーは継続、ロボットは新規

特別損失 本社増床費用など4百万円(前期は大阪事業所移転費用など12百万円)

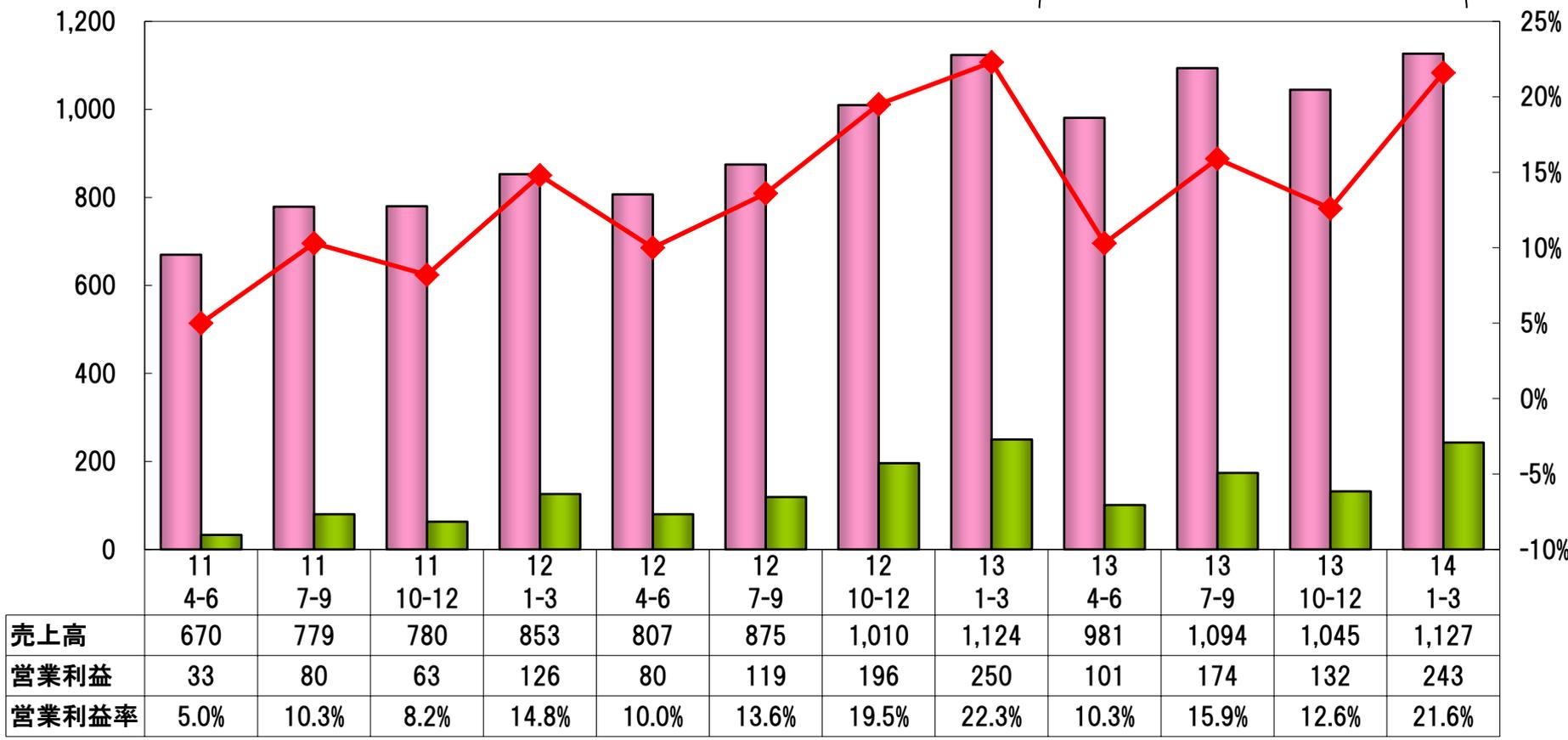
決算業績推移



四半期業績推移(PL)

12四半期連続で前年同期比増収、利益面では第3四半期から減益に
営業利益率は10%以上で推移

単位:百万円

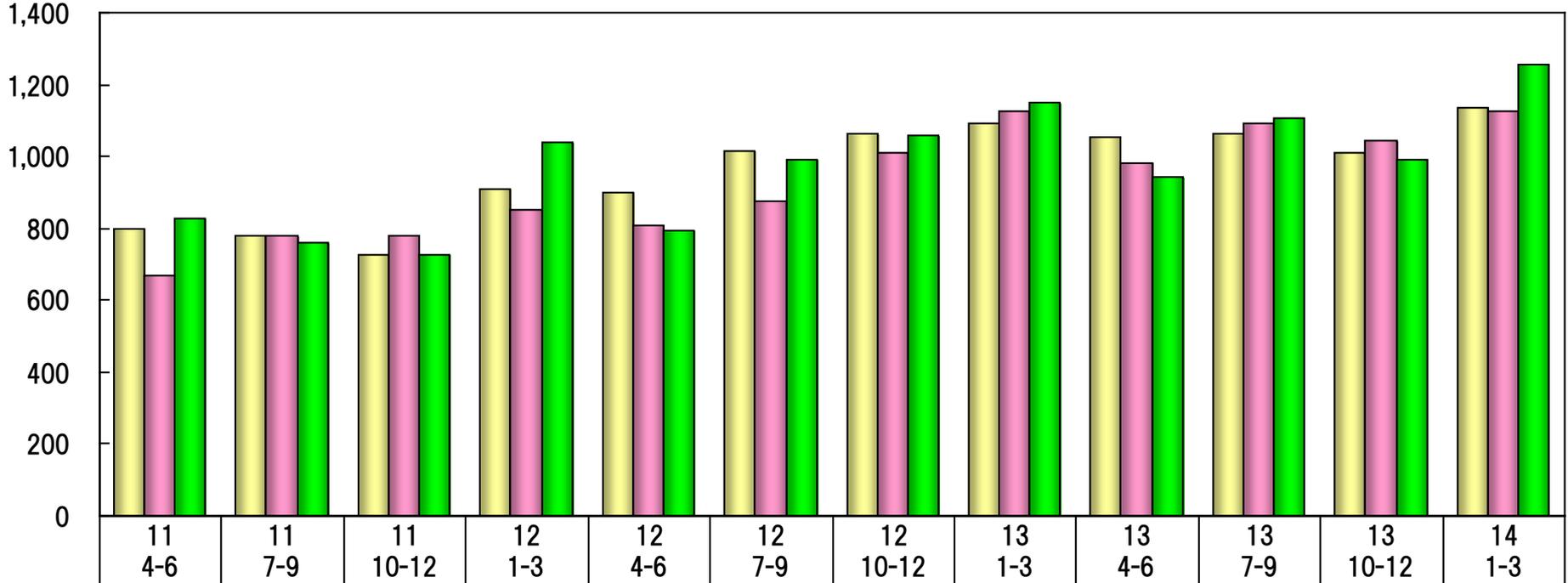
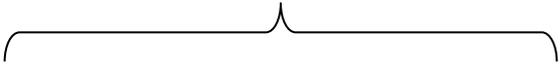


売上高 営業利益 営業利益率

四半期業績推移（受注）

受注高は、第3四半期を除き前期比で増加
 受注残高は、7四半期連続で10億円超を維持

単位：百万円



受注残高	801	779	726	911	900	1,014	1,064	1,093	1,052	1,065	1,008	1,137
売上高	670	779	780	853	807	875	1,010	1,124	981	1,094	1,045	1,127
受注高	829	758	726	1,039	796	989	1,060	1,152	941	1,107	989	1,256

■ 受注残高 ■ 売上高 ■ 受注高

BF別の状況

ワイヤレス、社会基盤システムが好調

ビジネスフィールド	2013年3月期		2014年3月期			前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	455	11.9	344	8.1	86.2	75.6
ワイヤレス	1,672	43.8	1,871	44.0	106.9	111.9
インターネット	569	14.9	454	10.7	84.1	79.7
社会基盤システム	445	11.7	1,049	24.7	163.9	235.5
宇宙先端システム	387	10.2	395	9.3	88.0	102.2
ソリューション	287	7.5	135	3.2	79.5	47.0
合計	3,818	100.0	4,250	100.0	107.6	111.3

- モバイルネットワーク 法人向けサービスの技術アプリケーションが減少 ⇒ 売上高は減少、利益面も減少
- ワイヤレス オープンプラットフォームに関連するサービスの開発が増加 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加
- インターネット 非接触型IC関連堅調、民間企業向け技術アプリケーションが減少 ⇒ 売上高は減少、利益面も減少
- 社会基盤システム 官公庁系と放送局向けの技術アプリケーションが大幅に増加 ⇒ 売上高は増加、利益面も増加
- 宇宙先端システム 先端技術に関わる国の研究機関向けの技術アプリケーションが増加 ⇒ 売上高は増加、利益面は増加
- ソリューション airCube for Androidのロイヤリティ収入の減少 ⇒ 売上高は減少、利益面も減少

期末の受注状況

11億円を上回る受注残高を確保

ビジネスフィールド	2013年3月期		2014年3月期				受注残高 前期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	計画達成率 (%)	受注残高 (百万円)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	438	110	374	92.3	139	121.0	126.5
ワイヤレス	1,859	540	1,516	85.6	185	33.0	34.3
インターネット	453	65	501	91.7	113	155.9	172.4
社会基盤システム	561	237	1,352	208.7	540	220.5	228.0
宇宙先端システム	422	96	431	94.6	132	128.9	136.9
ソリューション	264	42	117	68.5	25	57.1	59.8
合計	3,999	1,093	4,294	107.4	1,137	99.5	104.0

- 受注高は、計画を上回り、前期比でも294百万円(7%)の増加
- 受注残高は、ほぼ計画どおり、前期比では44百万円(4%)の増加
- 社会基盤システムの受注残高が前期比で大幅増、ワイヤレスが大幅減
→社会基盤システムの案件は長期の案件が多く、四半期別で見ると4-6月期の受注残高は前期を下回る

期末貸借対照表

単位:百万円

	2013年3月末日	2014年3月末日	増減
流動資産	3,616	3,660	44
固定資産	1,213	1,350	136
流動負債	789	606	▲183
固定負債	64	102	38
純資産	3,975	4,302	327
総資産	4,829	5,011	181
自己資本比率	82.3%	85.9%	3.5%
流動比率	457.8%	604.0%	146.2%
固定比率	30.5%	31.4%	0.9%

流動資産 主に売掛金の増加

固定資産 主に投資有価証券の増加

流動負債 主に未払法人税等の減少

固定負債 主に繰延税金負債の増加

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2013年3月期	2014年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	265	283	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲85	▲132	▲46
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲76	▲122	▲45
現金及び同等物の増減額	105	30	▲75
現金及び同等物期末残高	2, 102	2, 132	30
参考)長期預金＋満期保有目的債券	600	700	100
参考)現預金＋長期預金＋債券	2, 702	2, 832	130

営業キャッシュ・フロー 売上回収額の増加による収入の増加

投資キャッシュ・フロー 長期預金と有価証券の純増による支出の増加

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加による支出の増加

今期業績見通し (2015年3月期)

2015年3月期業績見通し

4期連続の増収増益を目指す

単位:百万円

	2014年3月期	2015年3月期	前期比(%)
売上高	4,250	4,300	101.2
売上原価	3,064	3,060	99.9
売上総利益	1,185	1,240	104.6
販売管理費	533	580	108.8
営業利益 (営業利益率)	651 (15.3%)	660 (15.3%)	101.3
経常利益	707 (16.7%)	710 (16.5%)	100.3
当期純利益	428	450	105.1

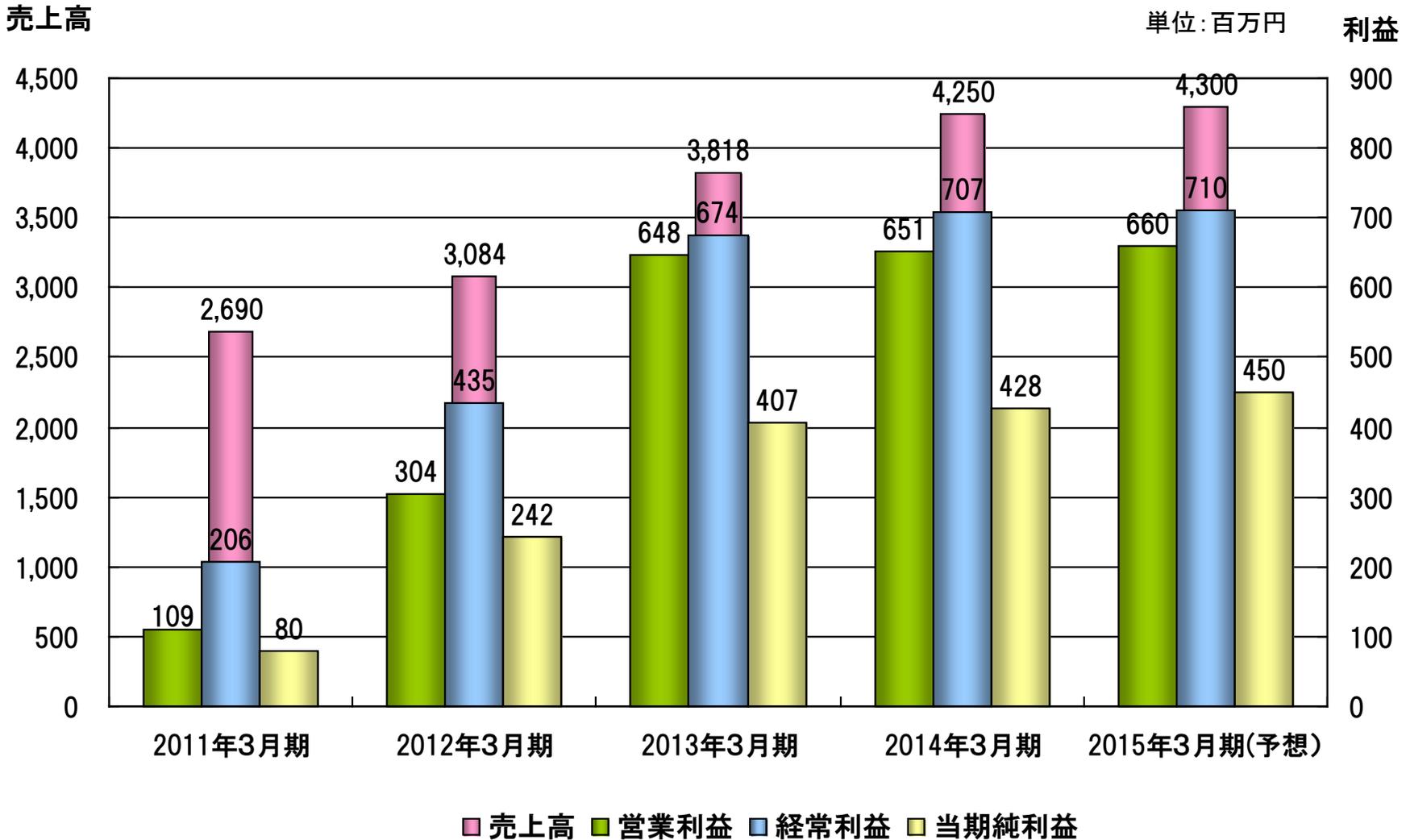
● 需要構造の変化への対応がポイント

業績を牽引してきたオープンプラットフォームの需要が一段落したが、新技術への対応で前期並みの売上高を確保し、参入障壁の高い防衛や医療分野などの社会基盤系システムの拡大を目指す。

● 需要構造の変化が予想されるため、利益面は前期と同程度を見込む。

● 次の成長のために研究開発に積極的に投資する。研究開発費は、前期並みを見込んでいるが、公募案件の採択によっては、増加する可能性はある。但し、営業外収入により経常利益への影響は少ない。

通期業績の推移



2015年3月期重点テーマ

需要構造の変化に迅速に対応し、継続的な成長を目指す

期初方針

成長分野に資源を投入：オープンプラットフォーム、社会基盤、ロボット

- オープンプラットフォームは、既存の強みを活かし、さらに新技術への対応を迅速に行い、強みを強化する。
- 社会基盤は、参入障壁の高い防衛、医療などの分野拡大を目指す。
- ロボットは、インテグレーションすることにチャレンジし、ビジネスを拡大する。

経営基盤の強化：新たなステージに相応しい内部体制の強化

- 協力会社を組み入れた体制でも高い品質を維持して開発量をこなすことで、継続的な成長につなげる。(継続)
- 社員の質が会社の質を決め、社員の成長が会社の成長につながる。次の成長に向けて、外部環境の変化に対応できる人材の育成に力を入れる。

2015年3月期BF別業績見通し

オープンプラットフォームは現状を維持、社会基盤システムで増収の見通し

ビジネスフィールド	期初の方針	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連する商談が減少すると予想されることから、減少	
ワイヤレス	iOSやWindowsPhoneなどの新しいプラットフォームやマルチメディア放送など、新たな技術やサービス系の商談が期待できることから、ほぼ横ばい	
インターネット	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアを中心として、前期と同様な商談状況が見込めることから、ほぼ横ばい	
社会基盤システム	防衛や医療分野の商談が増加すると予想されることから、増加	
宇宙先端システム	国の研究機関からの開発やロボットの商談が増加すると予想されることから、増加	
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品の販売が前期と同様と予想されることから、ほぼ横ばい	

注力分野の状況

オープンプラットフォーム

- モバイルネットワークBF／ワイヤレスBF／インターネットBF

環境エネルギー

- 社会基盤システムBF

ロボット

- 宇宙先端システムBF

オープンプラットフォーム

新技術への対応を加速し、引き続きマーケットを拡大

状況

- ・ 2008年よりAndroidスマートフォンを中心としたソフトウェア開発マーケットを開拓。
- ・ 通信事業者向けを中心としたサービス系ソフトウェア開発によりマーケットを拡大。

実績（2014年3月期 売上高約22億円）

- ・ Androidその他OSの大規模なスマートフォン・タブレットのソフトウェア開発
- ・ 移動体通信事業者やマルチメディア放送事業者向け関連するサービス系のソフトウェア開発
→電子マネー・MM放送・NFCなど競争優位が確保できる技術が活用されるマーケットの拡大
- ・ Android,Tizenに関する知識と実績を活かし、通信キャリア向けコアテクノロジーサービスの継続
- ・ iOS,WindowsPhone,ウェアラブルコンピュータ向けのマーケット拡大に向けた営業的取り組みを開始



今後の方針(新技術への対応を加速しマーケットを拡大)

- ・ 既存のマーケットをしっかりと維持し、iOS、WindowsPhoneなどのプラットフォームのソフトウェア開発マーケットを拡大
- ・ スマートフォンのみならずNFC搭載機器(決済端末など)のマーケットに参入し、サービス開発マーケットを拡大
- ・ airCube for Androidの資産を活かし、新しいマルチメディア放送(V-Low)サービスへの適用促進
- ・ ウェアラブルコンピュータ(NFC連携)ならびに屋内位置測位技術(iBeacon)の研究開発をスタート

環境エネルギー(M2M:Machine to Machine)

センサーベース技術 (M2M) を軸に他社と共同ビジネスとして推進

状況

- ・ 2008年度より環境エネルギー分野に取り組み、「急速充電器遠隔監視制御システム」、「スマート充電システム」(KDDIとの共同特許出願申請)を開発
- ・ 2010年度より、デンソー、豊田通商と共に商用施設用蓄電池付BEMS (Building and Energy Management System)の研究開発と実証検証に参画(経済産業省補助事業)
- ・ 太陽光エネルギーマネジメントシステムへビジネス展開
- ・ 環境エネルギー分野を支えるM2M(Machine to Machine)技術を活用し、ビジネス拡大

実績 (2014年3月期売上高約68百万円、研究補助金約10百万円)

- ・ 豊田市低炭素社会システムの実証プロジェクト(エネルギーマネジメントシステムの開発)に参画。
- ・ 福島県の太陽光エネルギーマネジメントシステムを開発
- ・ メガソーラーベンダ向けの太陽光発電エネルギーマネジメントシステムを開発
→太陽光のパネル単位の監視、発電効率の監視等、他社にない機能開発を推進
- ・ 地方都市防災計画(シミュレーション)。



今後の方針(他社とアライアンスを組んで推進)

- ・ 商用施設でのBEMSのビジネス化を推進(デンソー、豊田通商、KDDIとのアライアンス)
- ・ 太陽光発電エネルギーマネジメントシステムの開発及びソリューション化(メガソーラーベンダとのアライアンス)
- ・ センサーベース技術の強みを活かしてM2Mという視点で範囲を広げてビジネスを推進
→高齢者向け在宅見守りシステムの開発及びソリューション化(環境センサーベンダとのアライアンス)

ユビキタス社会の究極の端末はロボット

状況

- ・ 2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位
- ・ 2005年からNEDOからの受託研究を開始、2012年に「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」成果公開
- ・ 国際標準仕様RTC(Robot Technology Component)準拠のRTミドルウェアをコアテクノロジーとしてビジネス化を推進
- ・ 機能安全対応RTミドルウェアRTMSafetyについてIEC61508の認証を取得、2012年5月販売開始
- ・ 経済産業省「ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)」に参画・推進

実績 (2014年3月期 売上高約 91百万円、研究補助金約30百万円)

- ・ 開発案件
 - ・ 車両自動走行ソフトウェアの開発
 - ・ 危険作業用ロボット遠隔操作ソフトウェアの開発
 - ・ データセンター巡回センシングロボット開発の受託
 - ・ ロボットメーカ、住宅メーカ、大学からの受託開発
- ・ 論文発表・展示会出展他
 - ・ 産総研オープンラボ、国際ロボット展にてRTMSafetyの展示
 - ・ 宇宙科学技術連合講演会にて宇宙ロボット向けミドルウェアに関する論文発表
 - ・ RTM Safetyが、exida SAFETY AWARDS 2013受賞

 RTMSafety

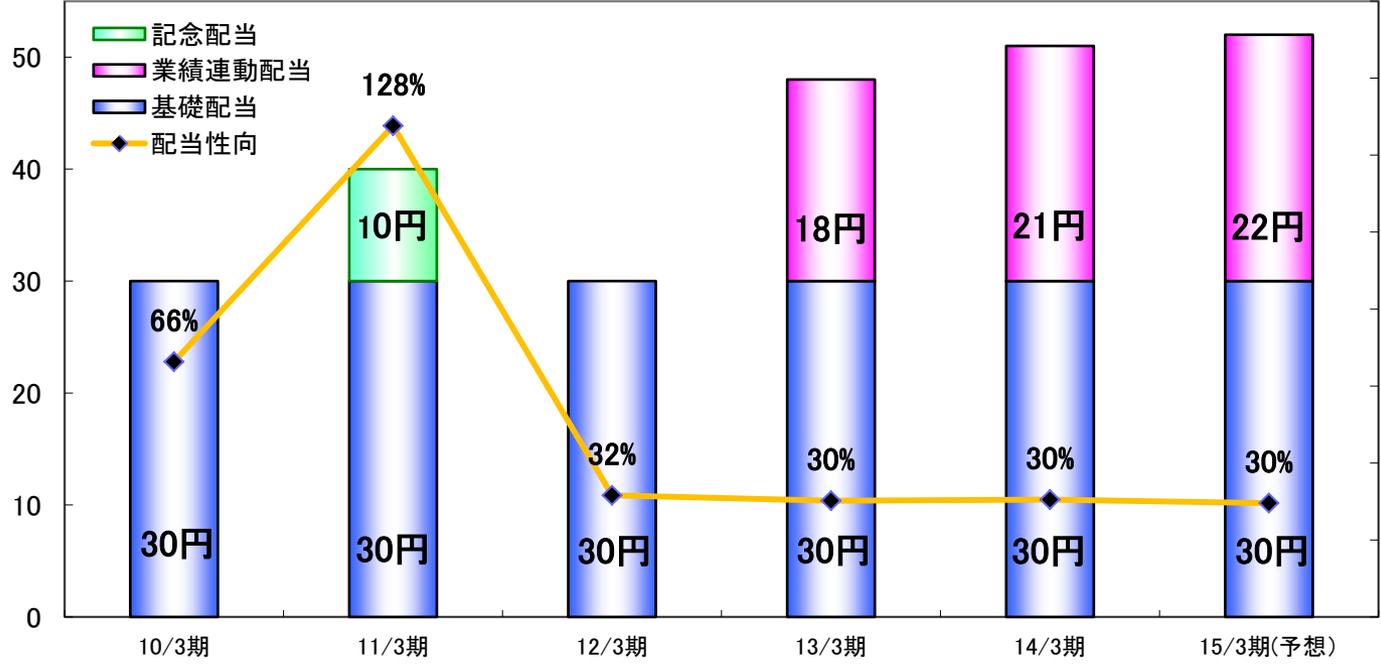


今後の方針(様々なビジネスに挑戦)

- ・ 大手半導体メーカ、ロボットベンチャーと協業し、RTMSafetyのライセンスビジネスを推進
- ・ 車両自動走行などのロボットソフトウェアの受託開発
- ・ ロボット製造を含み、セックが全体をインテグレーションするロボット受託開発
- ・ 機能安全コンサルテーション及び機能安全関連システム受託開発

配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。
- 2014年3月期は、前期より3円増配し、51円(配当性向30.5%)とする。
- 2015年3月期は、配当性向30%で算出した金額52円の予想とする。



本日はありがとうございました

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03-5491-4770

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化するをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。